東京大会と持続可能な木材の調達

WWFジャパン　森林グループ
相馬 真紀子

持続可能な日本のレガシー

発表の流れ

◆世界の森林資源概況

◆持続可能な木材の調達

◆東京オリンピック・パラリンピック競技大会
持続可能性に配慮した木材の調達基準

◆メッセージ

世界の森林資源について

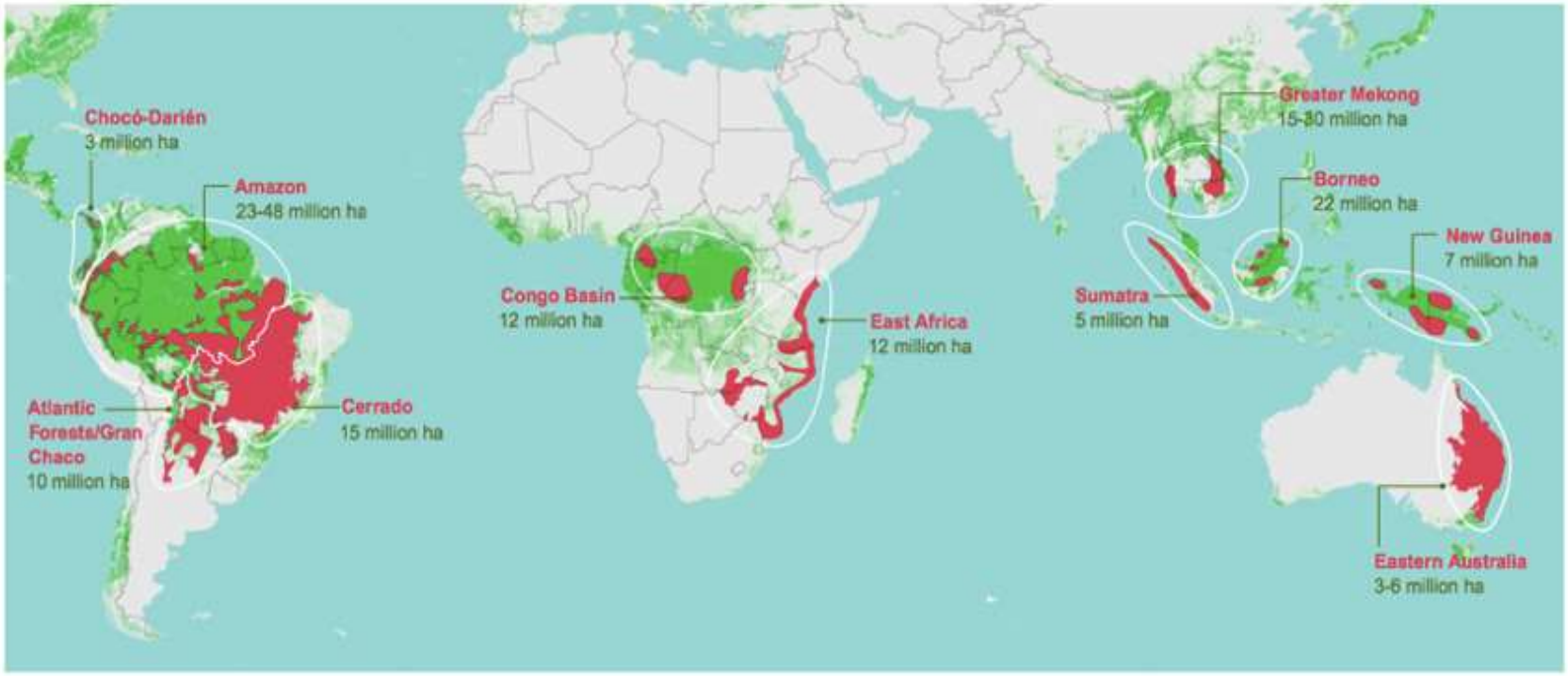
■FAO（国連食糧農業機関）の Global Forest Resources Assessment 2015

- 世界の森林面積 **約 40億ヘクタール**
- 世界の森林減少（2010-2015）**年間 760万ヘクタール**
- アマゾン, インドネシア, アフリカなど**熱帯地域での森林減少**が深刻

(http://www.fao.org/3/a-i4793e.pdf)

森林保全と持続可能な森林資源調達
世界の森林資源「森林破壊の最前線」とは？

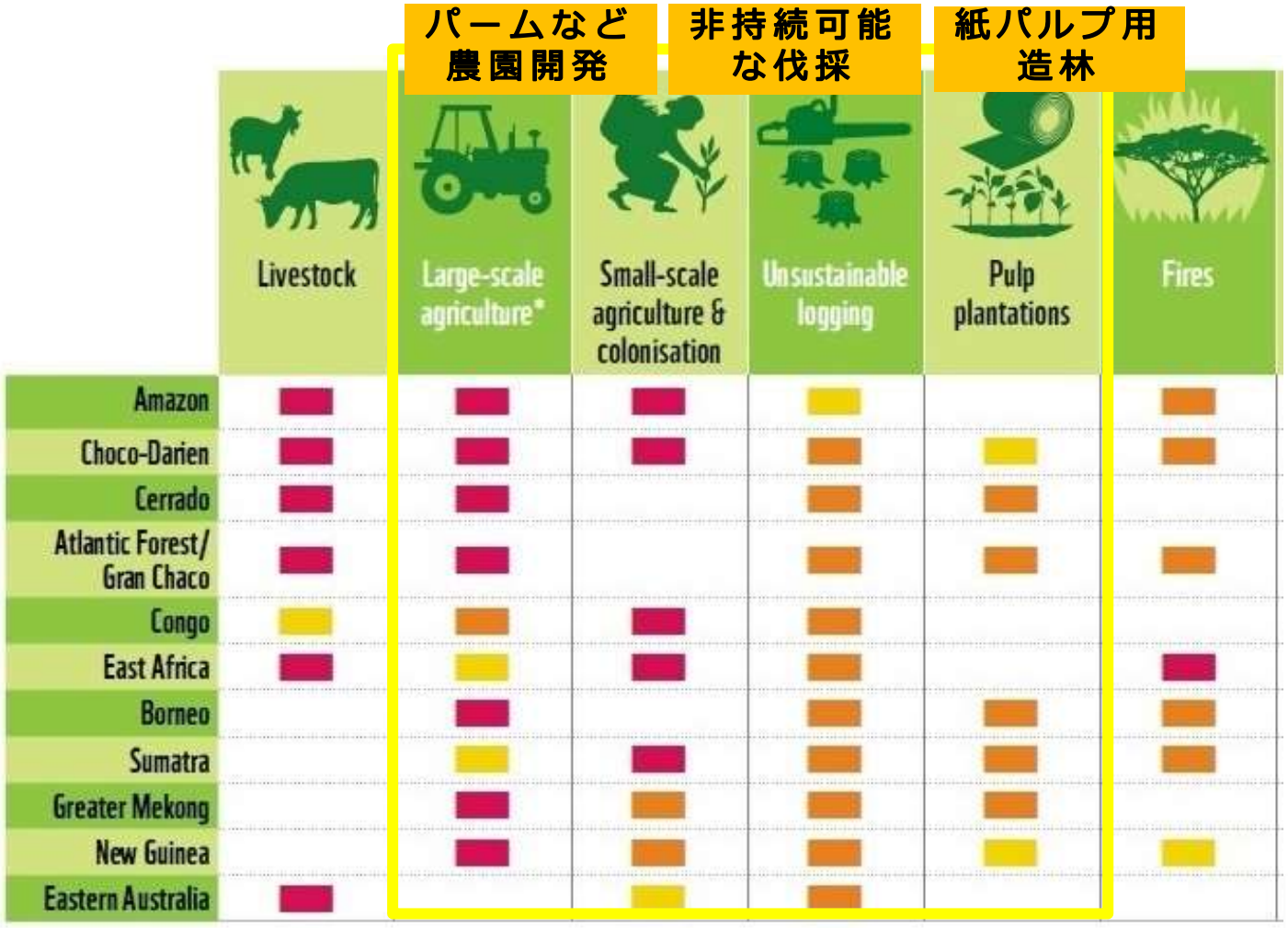
WWF発表の報告書「森林破壊の最前線」とは？
2010年-30年までの森林破壊の80%が、世界の11の地域で起こると予測



The 11 deforestation fronts, with projected losses, 2010-2030

持続可能な日本のレガシー

森林減少の要因（地域別）
世界の消費と結びつく森林減少



森林減少の最大の要因

森林減少の重要な要因

森林減少の要因としては軽度

WWF

持続可能な日本のレガシー

もとあった自然林
多種多様な樹種が混在する自然の熱帯林は、多くの生き物が生息する“生物多様性の宝庫”
インドネシア スマトラ島

© WWF Indonesia

ドローンから撮影した
伐採・開発のようす
（スマトラ島）

インドネシア アチェ州

自然林減少の要因：非持続可能な土地利用
合法的に伐採された土地だが・・・

自然林減少による主な負の影響

◆生物多様性損失・絶滅危惧種の生息地減少

◆地域住民や先住民との社会紛争

◆二酸化炭素吸収源の減少と排出　⇒　温暖化への影響

持続可能な林産物の調達　～これまでの流れ～

～1990s

1980s：熱帯地域を中心に森林減少が問題視

生産国と利害が対立

1992：リオ・サミットにて森林条約への合意なされず（気候変動枠組条約、生物多様性条約は成立）

1993：民間での解決を目指しWWFが中心となりFSC（森林管理協議会）立上げ

2000s

森林認証も包括した「持続可能な調達」の考え方が出てくる

2005前後：日本でも木材や紙の調達方針の策定が広がる

最低限の要求事項として

「違法伐採でないこと」

であったが徐々に、

合法≠持続可能

が問われるように

2010～

持続可能性の確認が進みサプライチェーンから森林減少や人権侵害をなくす「森林減少ゼロ」の動き

2015頃～：SDGs/ESG

企業がSDGsを経営戦略に取り込むことで企業価値の持続的な向上と社会課題の解決を目指す

「森林減少ゼロ」サプライチェーンを宣言する企業が多数登場

森林保全と持続可能な林産物の調達
森林認証制度 FSC（Forest Stewardship Council）

FSC®（Forest Stewardship Council®）

✓ 1993年に設立された森林認証制度 ＆ 管理組織

✓ 第三者の評価で審査、認証
- 適切に管理された森林（FM認証）
- 木材の加工プロセス（CoC認証）

FSC
www.fsc.org
FSC® N002174

責任ある森林管理のマーク

適切な
森林管理
（FM認証）

徹底した分別管理（CoC認証）

違法に伐採された木材や、環境・社会面で問題のある地域や企業からの木材を避けられる
⇒　環境にやさしい木材のお墨付きともいえる

WWF

持続可能な日本のレガシー

FSCとSDGs

リスクのある木材を使わないために
FSCの10の原則
対応するSDGs

1
法律や国際的なルールを守っていること

2
働く人の権利や安全が守られていること

3
先住民族の権利を尊重していること

4
地域社会を支え、よい関係を築いていること

5
さまざまな森の恵みを活かし、それらを絶やさないこと

6
豊かな森林の自然環境を守ること

7
いろいろな意見を聞きながら、森の管理を計画すること

8
森や管理の状態を、定期的にチェックすること

9
環境や文化など、その森が持つ大切な価値を守ること

10
環境に配慮した管理活動をきちんと実施していること

出典：FSCジャパン提供資料をもとに作成

森林保全とサステナブルな木材調達
FSCの森林管理　実践例

ルール２．労働者　　ルール4. 地域社会

↑労働者と地域住民のために建てた中学校

ルール6. 豊かな自然環境を守る

↑FSC認証林のなかにあるオランウータンの巣

持続可能性に配慮した木材の調達基準

2016年
6月
- 第1版公表

2017年
9月
- 国立競技場の木材調達に関しNGOらがIOCと2020年東京大会当局へ書簡

2018年
7-11月
- 持続可能な調達WGによる調達基準の再検討

2019年
1月
- 第2版公表（改訂ポイントは２つ）

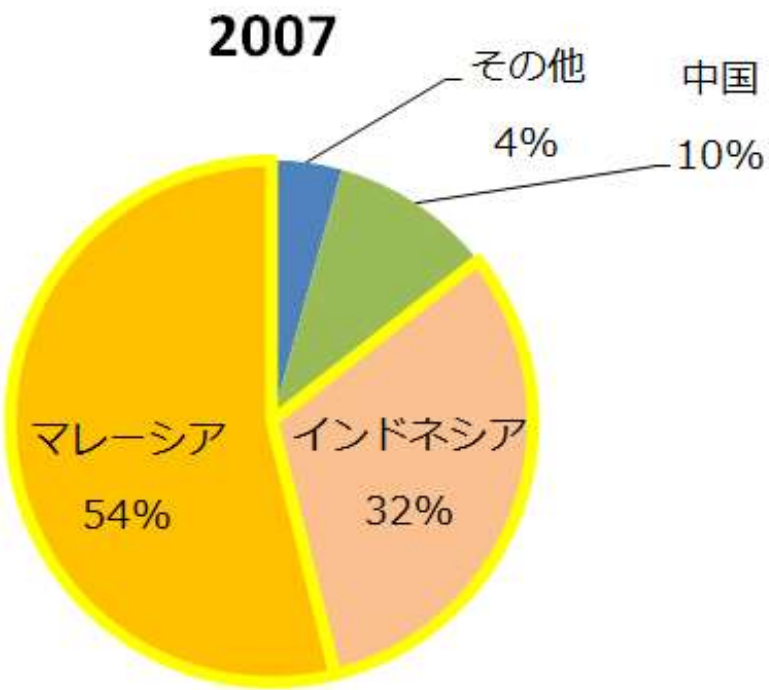
◆高リスクな供給源からの木材の使用停止を要求
◆問題視された木材は
サラワク州シンヤン社のもので
地域も企業も高リスク

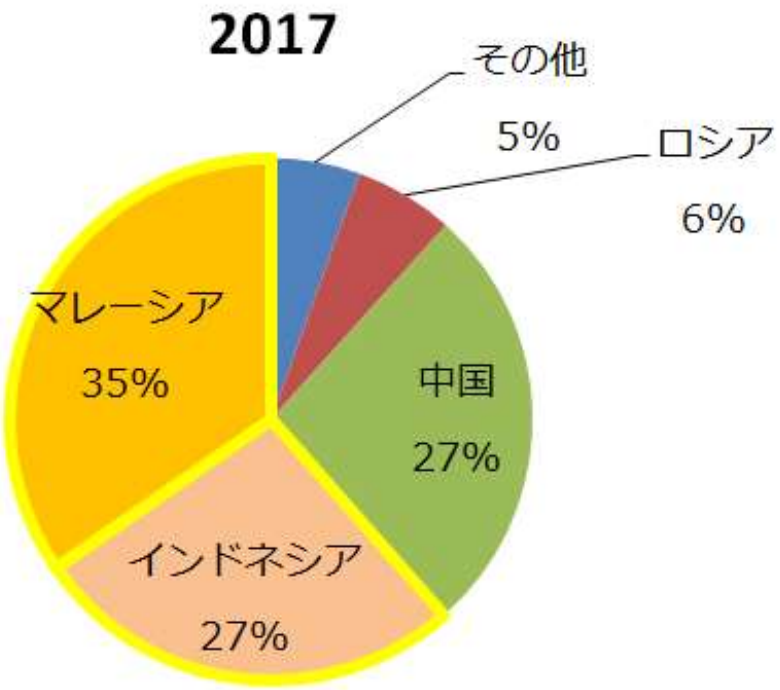
2020年東京大会当局への公開書簡

FoEジャパンHPより↑

問題となった熱帯産合板

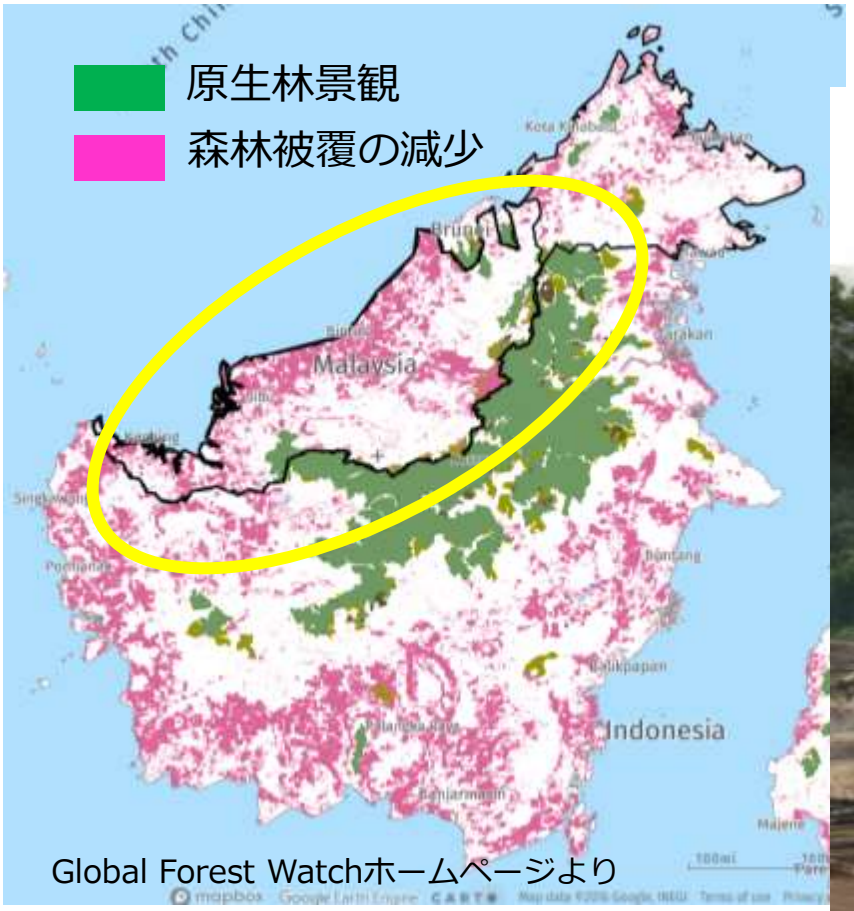
- 住宅の壁や床、コンクリート型枠など多様な用途に利用
- 2017年の木材国内総需要の13%
- マレーシアとインドネシア産が大半を占める





出典：財務省「貿易統計」

マレーシア国サラワク州産の木材



Global Forest Watchホームページより

- 以前には欧米の環境団体から伐採権をめぐる汚職の疑いなどの指摘も

← JATAN HPより

↓Global Witness HP より

日本はサラワク州産合板の主要な輸出先として森林保全の重要なステークホルダー

持続可能性に配慮した木材の調達基準（第２版）
項目２：持続可能性の原則

合法性確認に加えて、地域の生態系や先住民族・地域住民の権利に配慮することなど、持続可能性の原則としては概ね適切

1. 伐採に当たって、原木の生産された国又は地域における**森林に関する法令等**に照 らして手続きが適切になされたものであること
2. 中長期的な**計画又は方針に基づき管理経営**されている森林に由来するものであり、**森林の農地等への転換に由来するものでない**こと（注）
3. 伐採に当たって、**生態系の保全**に配慮されていること
4. 伐採に当たって、**先住民族や地域住民の権利に配慮**されていること
5. 伐採に従事する**労働者の安全対策**が適切に取られていること

（持続可能性に配慮した木材の調達基準より）

（注）第2版改定の際に追加されたポイントの一つ目
ただし、植林地（人工林）への転換は含まれない。
（2018年12月26日第１５回「持続可能性ディスカッショングループ」議事録より）

WWF

持続可能な日本のレガシー

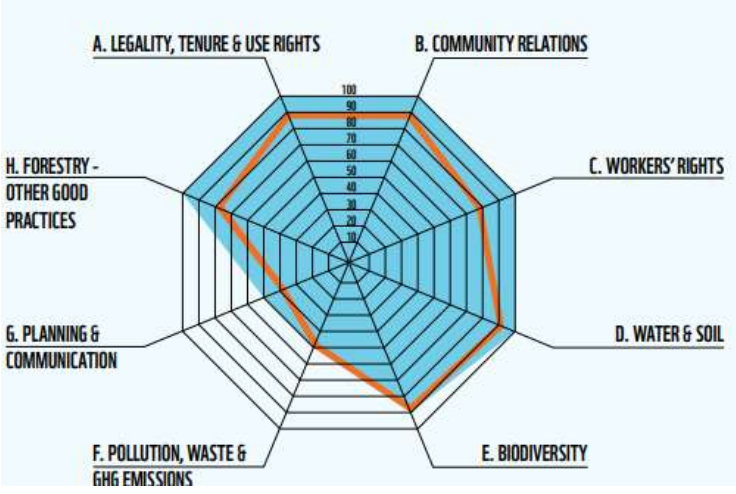
持続可能性に配慮した木材の調達基準（第２版）
持続可能性の確認方法

項目3：FSC、PEFC、SGECによる認証材については上記２の①～⑤への適合度が高いものとして原則認める　（持続可能性に配慮した木材の調達基準より）

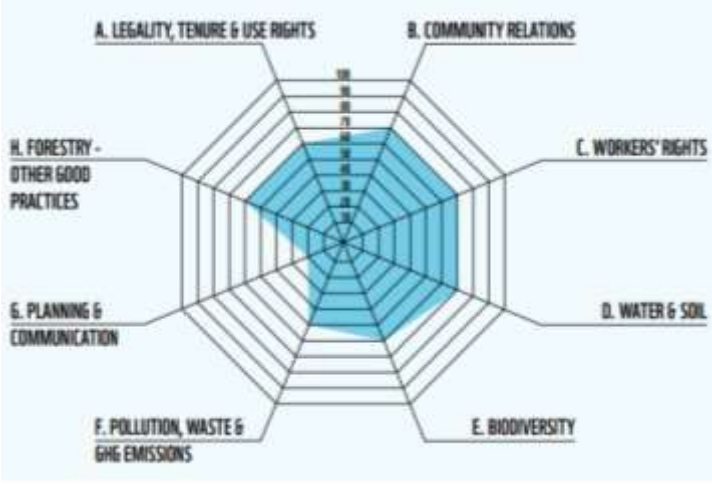
PEFCは様々な国の認証システムが加入できるアンブレラ的な認証制度。国による精度のばらつきや、基準を担保するための運用能力にも差が出てくる。相互認証と呼ばれ、FSCのように統一された基準を執行するシステムとは異なる。

例）PEFCがマレーシアで認めているのは「MTCS」という認証

WWFによる**FSC**の評価



WWFによる**MTCS**の評価



コミュニティとの関係や生物多様性、労働者の権利など、多くの項目でMTCSはFSCよりも脆弱と評価

WWF CERTIFICATION ASSESSMENT TOOL HP より

持続可能性に配慮した木材の調達基準（第２版）
持続可能性の確認方法

項目４（別紙１）（非認証材については）「国産材の場合は森林所有者、森林組合又は素材生産事業者等が、輸入材の場合は輸入事業者が、説明責任の観点から合理的な方法に基づいて以下の**確認を実施し、その結果について書面に記録する**」こととされている。

＊（）内筆者

- 非認証材の持続可能性については事業者による自主確認任せ
- 持続可能性の原則に則った適切な調達が実施されたかどうか、組織委員会が確認する手段として十分とはいえない
- より透明性の高い確認方法が必要

持続可能性に配慮した木材の調達基準（第２版）
持続可能性の確認方法

項目7：「可能な範囲で原材料の**原産地**や**製造事業者**に関する情報を収集し、リスク低減に活用することが**推奨**される」

- 第2版に改訂の際に追加されたポイントの２つ目
- 製品そのものだけでなく、地域やサプライヤーのリスク管理
- 合法性や森林認証に頼るだけでなく、企業自身の追加調査によって購入するのか、躊躇するのか、といった判断を下すことは重要
- 「推奨」では不十分であり「義務」にすべき

オリンピックに使用されたFSC木材
浜松市と山梨県

有明体操競技場の外装や選手村に浜松市の
FSC天竜材使用　（写真は浜松市提供）

山梨県も選手村などにFSC材使用
（写真は山梨県HPより）

WWF

持続可能な日本のレガシー

メッセージ

- ◆ 現行の木材調達基準では持続可能な調達できない可能性
- ◆ SDGsやESGに象徴される世界の流れは、森林減少や人権侵害につながる産品をサプライチェーンから排除する方向
- ◆ ポスト2020を見据えて持続可能で透明性のある調達がますます求められる
- ◆ 違法に伐採された木材や、環境・社会面で問題のある地域や企業に由来する木材を避けるために
  - 信頼できる認証の活用
  - 自主的な確認
- ◆ より多くの企業に、お取組みの指針を「調達方針」として公表いただくことに期待

WWF

together possible™

持続可能な日本のレガシー